

栗 東 市
子ども・子育て支援に関する
ニーズ調査結果報告書
概要版

平成 31 年 3 月

栗東市

目次

I. 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の種類と実施方法	1
3. 配布と回収状況	1
4. 調査結果の見方	1
II. 調査結果のポイント	2
1. 家族の状況と子どもの育ちをめぐる環境について	2
2. 両親の就労状況・就労意向について	6
3. 教育・保育事業の利用状況と利用希望について	8
4. 地域子ども・子育て支援事業の利用について	11
5. 小学生の放課後の過ごし方について	14
6. 職場の両立支援制度について	15
7. 子育て支援全般について	18

I. 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、2020年度から2024年度までを計画期間とする「第2期子ども・子育て支援事業計画」策定の基礎資料とするため、確保を図るべき特定教育・保育、地域子育て支援事業等の潜在ニーズを含む利用意向を的確に把握し、事業量を設定することを目的に実施したものです。

2. 調査の種類と実施方法

本調査においては、対象者別に次の2種類のアンケート調査を実施しました。

調査の種類	調査の対象（母集団）	実施方法
就学前児童 保護者	市内の就学前児童（0歳児～5歳児）の 保護者	◇住民基本台帳より無作為抽出 2,000人 ◇郵送による配布・回収
小学生 保護者	市内の就学児童（小学1年生～6年生） の保護者	◇住民基本台帳より無作為抽出 1,000人 ◇郵送による配布・回収

【調査基準日】平成30年11月1日

【調査期間】平成30年11月14日～11月30日（12月末回収分まで受付）

【礼状および回答のお願い通知】平成30年11月27日送付

3. 配布と回収状況

調査票の配布と回収の状況は次のとおりです。

	配布数	回収数	回収率
就学前児童保護者	2,000件	1,068件	53.4%
小学生保護者	1,000件	539件	53.9%

4. 調査結果の見方

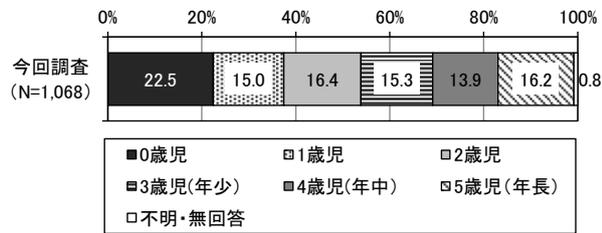
- ◇回答結果の割合「%」は、有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つ選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- ◇複数回答（複数の選択肢から2つ以上選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◇図表中の「N（number of case）」は、有効回収数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- ◇それぞれの設問の選択肢について、長い文はその意味を損なわない程度に簡略化している場合があります。

Ⅱ. 調査結果のポイント

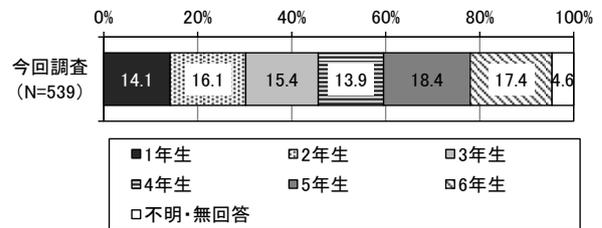
1. 家族の状況と子どもの育ちをめぐる環境について

(1) 対象児童の年齢（数量回答）

【就学前調査】

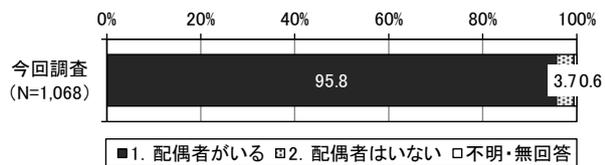


【小学生調査】



(2) 回答者の配偶者の状況（単数回答）

【就学前調査】

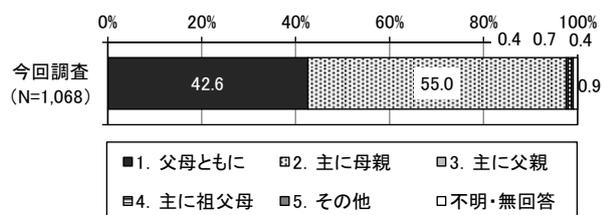


【小学生調査】

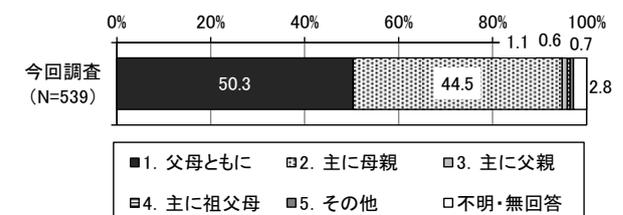


(3) 子育ての主体者（単数回答）

【就学前調査】



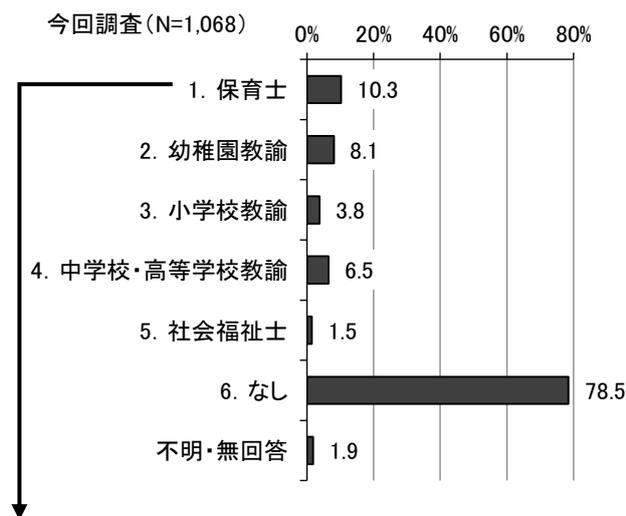
【小学生調査】



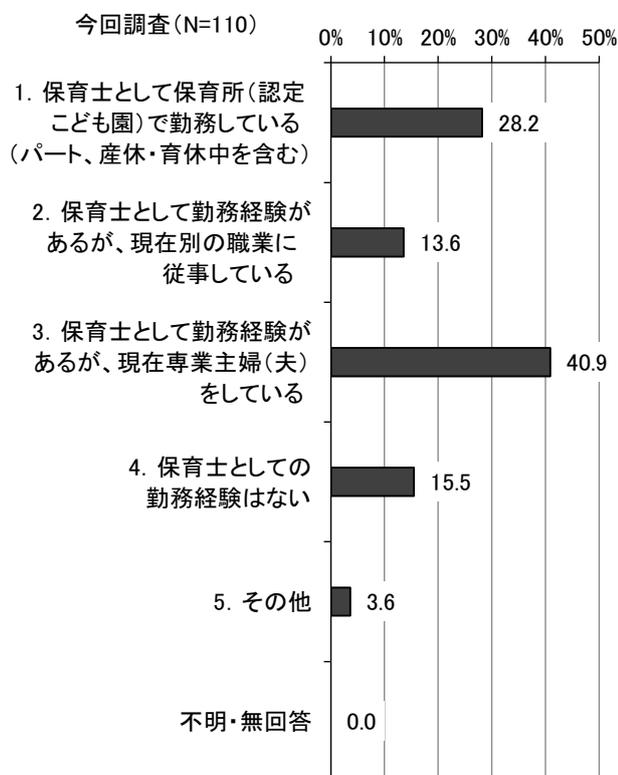
(4) 回答者およびご家族の所持している資格と保育士資格をお持ちの方の勤務経験（複数回答）

- 回答者およびご家族の所持している資格については、「保育士」資格を就学前で 10.3%、小学生で 8.5%、「幼稚園教諭」免許を就学前で 8.1%、小学生で 7.2%の方が所持されています。
- 保育士資格を所持している方の勤務経験については、就学前では「保育士として勤務経験があるが、現在専業主婦（夫）をしている」が 40.9%と最も高く、小学生では「保育士として保育所（認定こども園）で勤務している（パート、産休・育休中を含む）」「保育士として勤務経験があるが、現在別の職業に従事している」がともに 30.0%以上となっています。

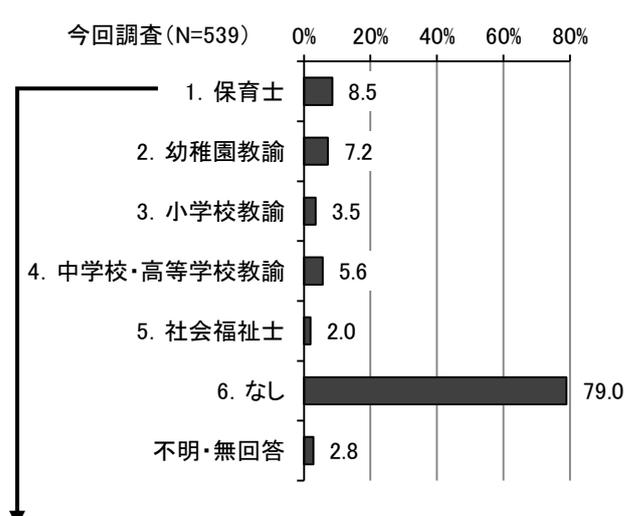
【就学前調査】



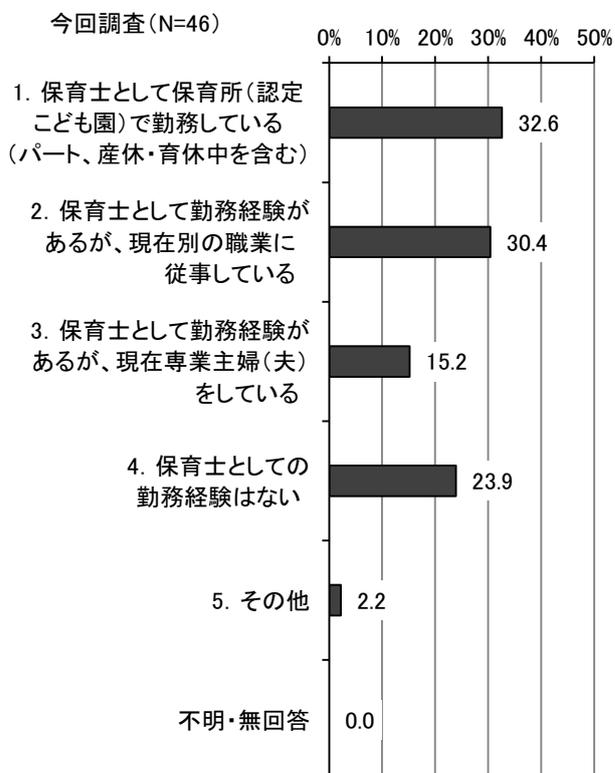
《保育士資格をお持ちの方の勤務経験》



【小学生調査】

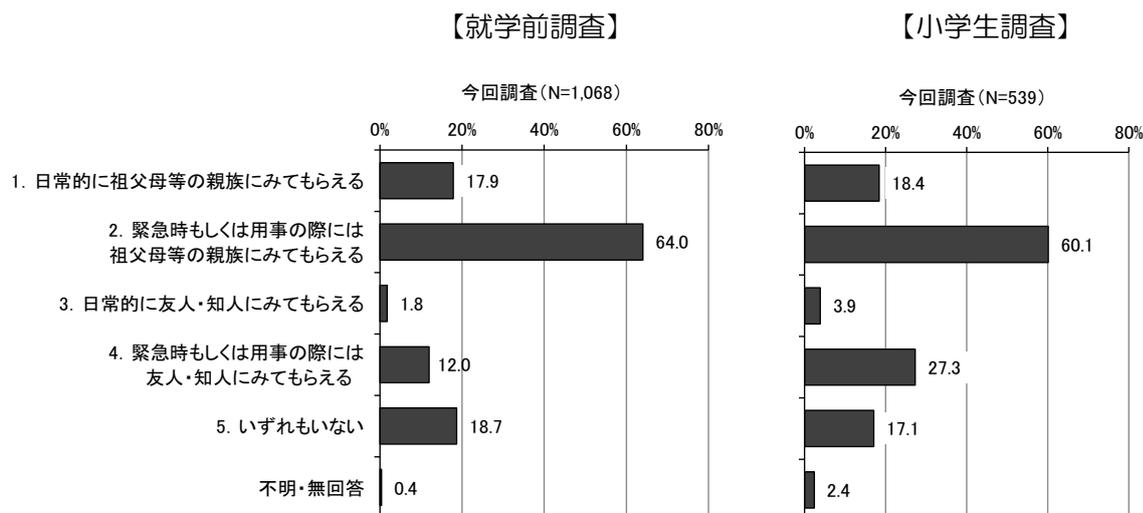


《保育士資格をお持ちの方の勤務経験》



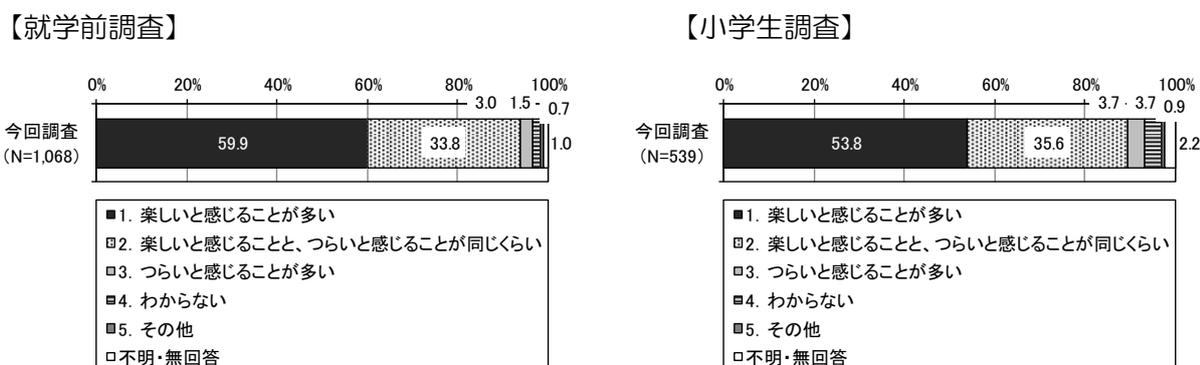
(5) 日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無（複数回答）

●日頃、子どもをみてもらえる状況については、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が就学前、小学生ともに60.0%以上、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が就学前で17.9%となっており、祖父母等の支援を受けながら子育てをしている様子がうかがえます。また、小学生では、「緊急時もしくは用事の際には友人・知人にみてもらえる」が27.3%となっており、就学前に比べ、友人・知人の手助けを得ている傾向にあります。「いずれもない」については、就学前、小学生ともに10.0%後半と一定数の回答があります。



(6) 子育ての楽しさやつらさ（単数回答）

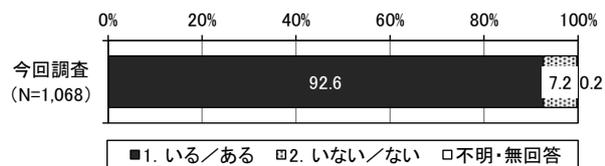
●子育てをどう感じるかについては、「楽しいと感じることが多い」が就学前、小学生ともに50.0%以上と最も高く、次いで「楽しいと感じることと、つらいと感じることが同じくらい」が30.0%以上、「つらいと感じることが多い」が3.0%程度となっています。



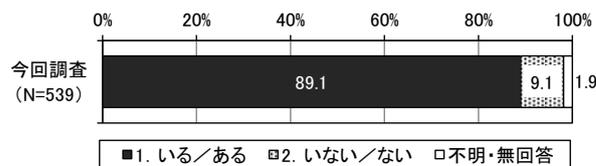
(7) 相談相手の存在 (単数回答)

- 相談できる人や場所については、「いる／ある」が就学前、小学生ともに 90.0%前後、「いない／ない」が就学前で 7.2%、小学生で 9.1%となっています。
- 気軽に相談できる相手／機関については、「親族(親、きょうだいなど)」が就学前で 90.1%、小学生で 84.4%と最も高く、次いで「友人・知人」が就学前で 74.9%、小学生で 81.7%となっています。

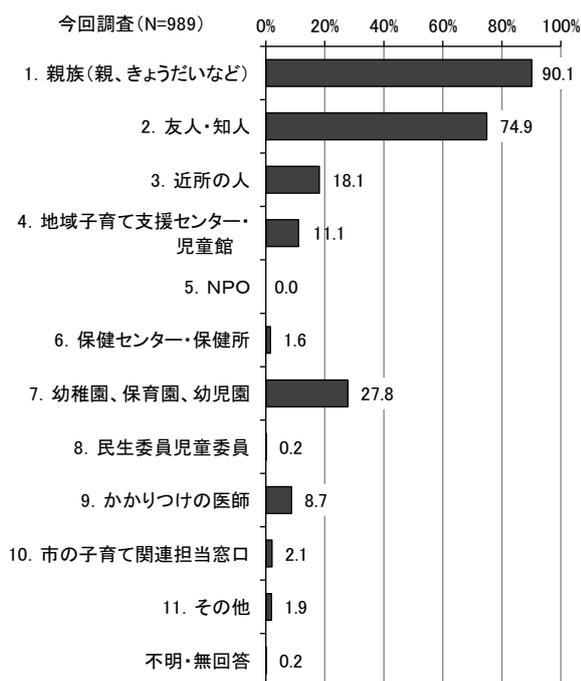
【就学前調査】



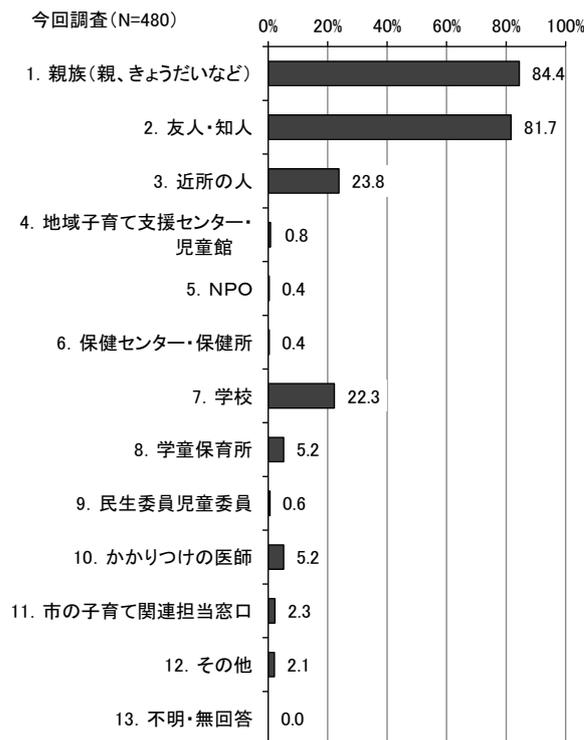
【小学生調査】



《気軽に相談できる相手／機関》



《気軽に相談できる相手／機関》

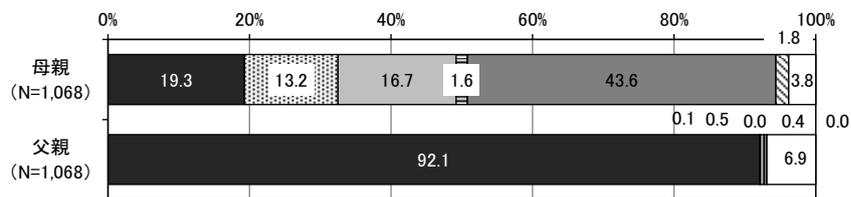


2. 両親の就労状況・就労意向について

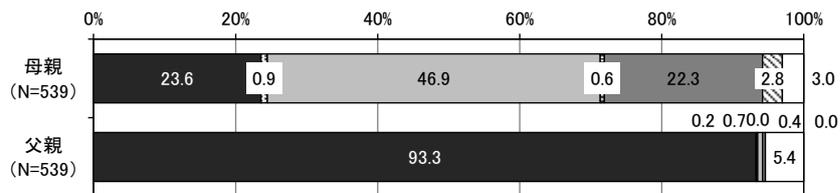
(1) 現在の就労状況について（単数回答）

- 就学前の保護者の就労状況については、父親では「フルタイム」の割合が最も高く、母親では、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が43.6%と最も高く、次いで「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が19.3%となっています。
- 小学生の保護者の就労状況については、父親では「フルタイム」の割合が最も高く、母親では、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が46.9%と最も高く、次いで「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が23.6%となっています。

【就学前調査】



【小学生調査】

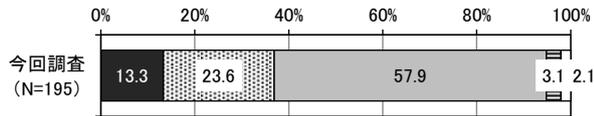


- 1. フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
- ▨ 2. フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である
- ▤ 3. パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
- ▥ 4. パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である
- ▧ 5. 以前は就労していたが、現在は就労していない
- 6. これまで就労したことがない
- 不明・無回答

(2) 現在パート・アルバイト等で働いている方のフルタイムへの転換希望（単数回答）

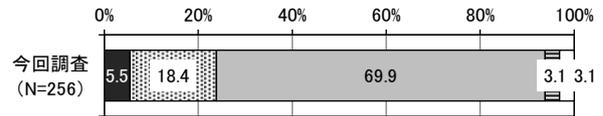
●パートタイム・アルバイト等で就労している母親のフルタイムへの転換希望では、パートタイム・アルバイト等の就労を続けることを希望する割合は、就学前で57.9%、小学生で69.9%となっており、フルタイムでの就労よりもパート・アルバイトの希望が高く、子育てをしながら一定の時間内で就労を希望している母親が多いことがうかがえます。

【就学前調査】



- 1. フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある
- 2. フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない
- 3. パート・アルバイト等で就労を続けることを希望
- 4. パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい
- 不明・無回答

【小学生調査】



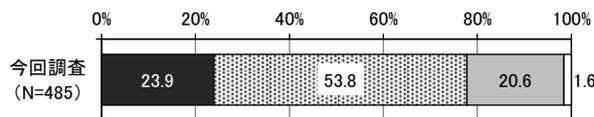
- 1. フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある
- 2. フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない
- 3. パート・アルバイト等で就労を続けることを希望
- 4. パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい
- 不明・無回答

(3) 現在働いていない方の働きたいという希望（単数回答）

●現在就労していない母親の就労意向については、「1年より先、一番下の子どもが()歳になったところに就労したい」、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」を合わせた割合が就学前、小学生ともに70.0%前後となっており、母親の働く意欲が高いことがうかがえます。

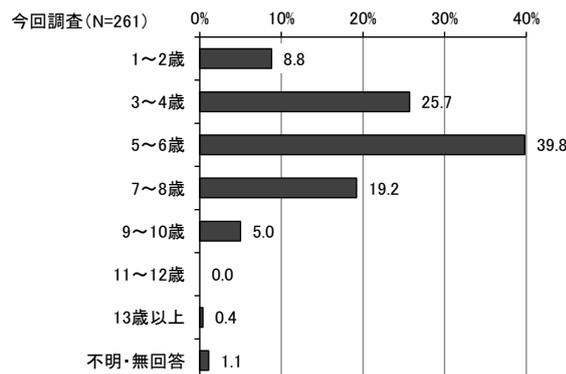
●就労を希望する子どもの年齢については、「5～6歳」が就学前で39.8%、小学生で26.5%と最も高く、次いで「3～4歳」が就学前で25.7%、「7～8歳」が小学生で24.5%となっています。

【就学前調査】

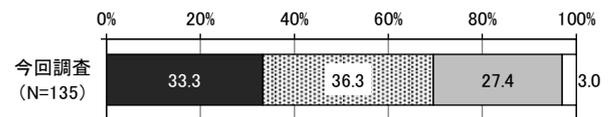


- 1. すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい
- 2. 1年より先、一番下の子どもが()歳になったところに就労したい
- 3. 子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)
- 不明・無回答

《子どもが何歳になったら就労したいか》

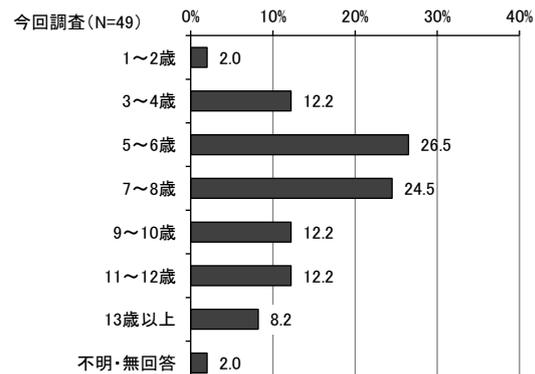


【小学生調査】



- 1. すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい
- 2. 1年より先、一番下の子どもが()歳になったところに就労したい
- 3. 子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)
- 不明・無回答

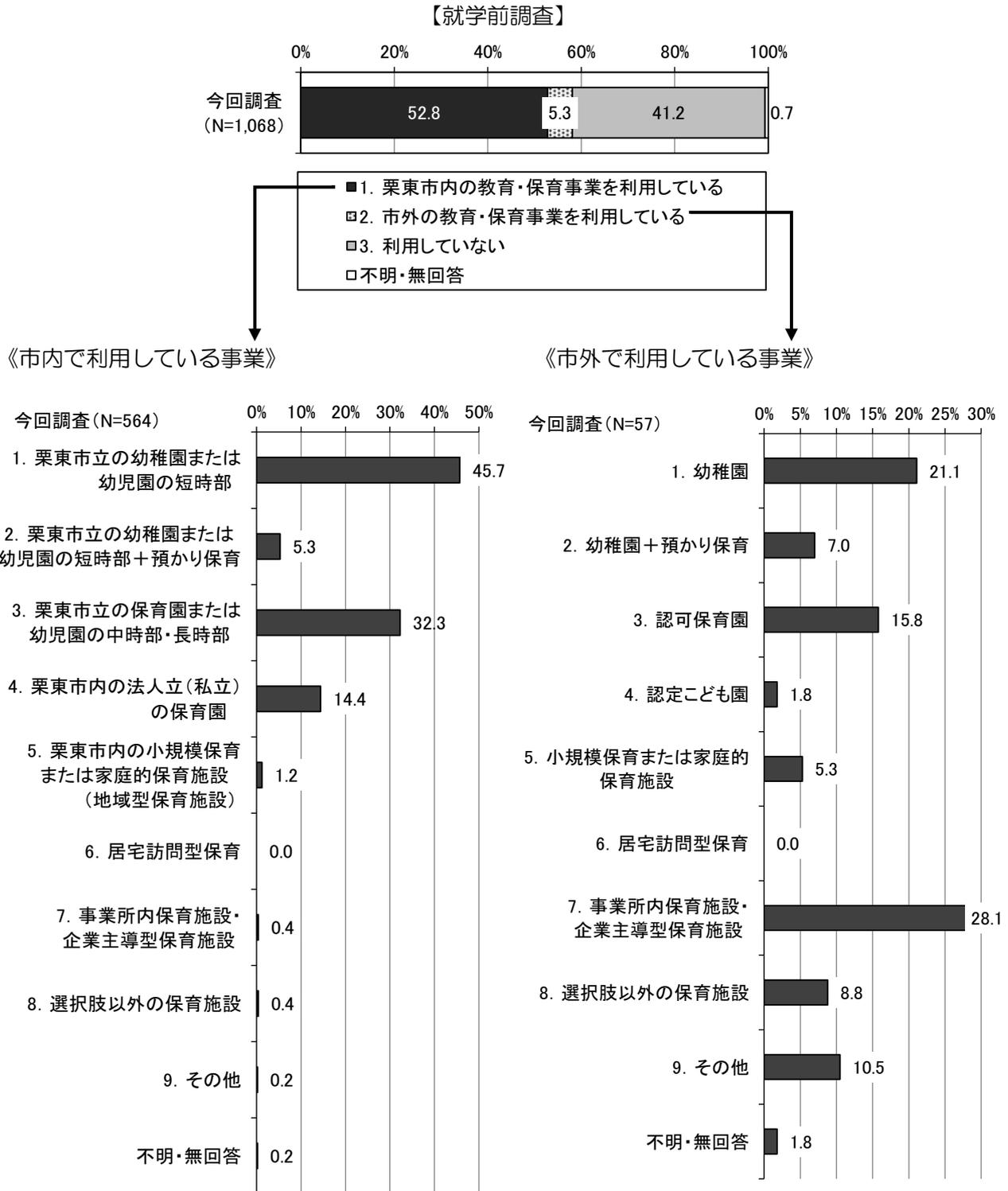
《子どもが何歳になったら就労したいか》



3. 教育・保育事業の利用状況と利用希望について

(1) 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況（単数回答）

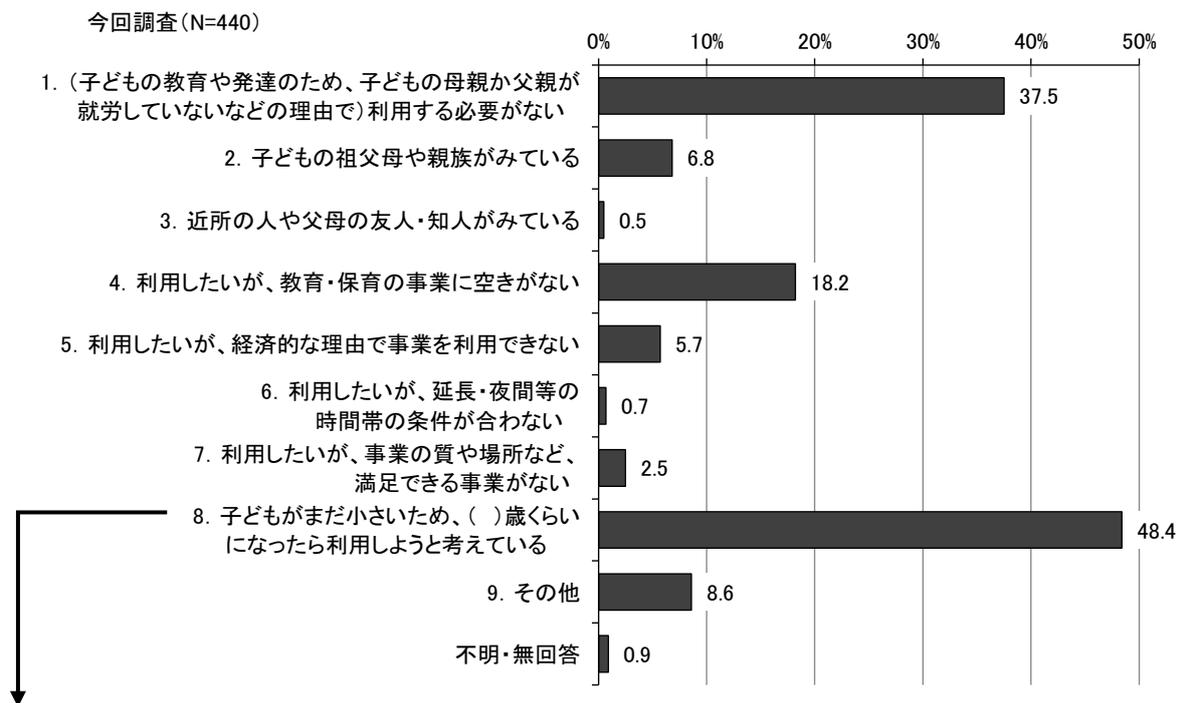
●平日の定期的な教育・保育事業を「栗東市内の教育・保育事業を利用している」割合は52.8%となっています。利用している教育・保育事業として「栗東市立の幼稚園または幼児園の短時部」が45.7%と最も高く、次いで「栗東市立の保育園または幼児園の中時部・長時部」が32.3%となっています。



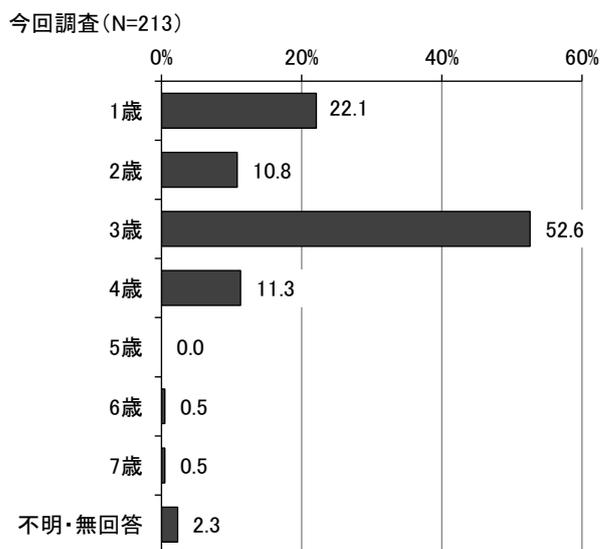
(2)「定期的な教育・保育事業」を利用していない方の理由（複数回答）

- 利用していない主な理由として、「子どもがまだ小さいため、()歳くらいになったら利用しようと考えている」が48.4%と最も高く、次いで「(子どもの教育や発達のため、子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で)利用する必要がない」が37.5%となっています。
- 事業の利用開始年齢については、「3歳」を希望する方が52.6%となっており、3歳未満では、家庭で保育することを望む方も多いことがうかがえます。また、「利用したいが、教育・保育の事業に空きがない」が18.2%となっており、教育・保育の受け皿の拡大が必要とされていることがうかがえます。

【就学前調査】



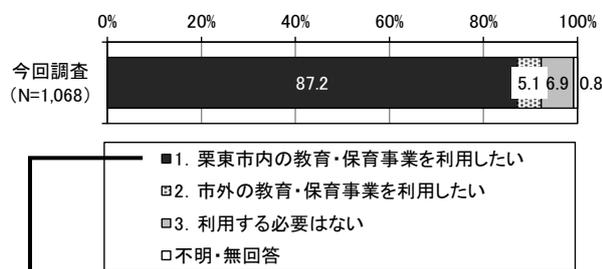
《平日の定期的な教育・保育を利用しようと考えている年齢》



(3) 平日の「定期的な教育・保育の事業」の利用意向（単数回答）

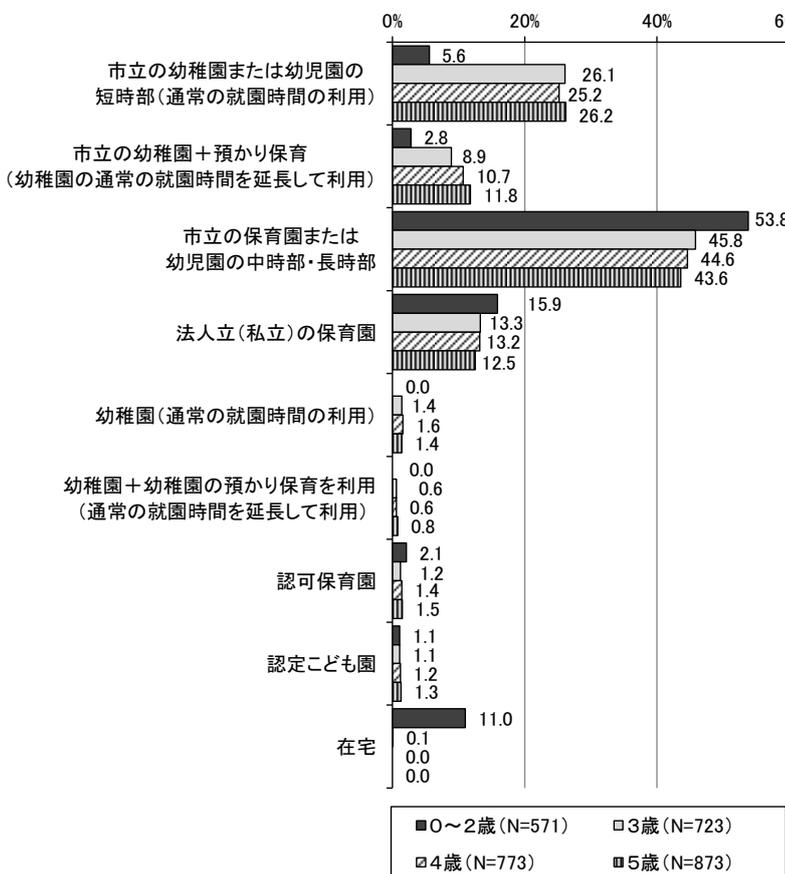
- 平日の教育・保育事業の利用については、「栗東市内の教育・保育事業を利用したい」が87.2%を占め、「市外の教育・保育事業を利用したい」が5.1%となっています。一方、「利用する必要はない」が6.9%となっています。
- 現在の利用の有無にかかわらず、今後利用したい事業では、0～2歳の第1希望については「市立の保育園または幼稚園の中時部・長時部」が53.8%と最も高く、次いで「法人立（私立）の保育園」が15.9%となっています。無償化の場合の希望についても、同様の傾向にありますが、「法人立（私立）の保育園」の割合が、第1希望よりも上昇しており、無償化によって経済的負担が軽減された場合、特色ある法人立（私立）の保育園を選択することを視野に入れる方が一定数いると考えられます。

【就学前調査】

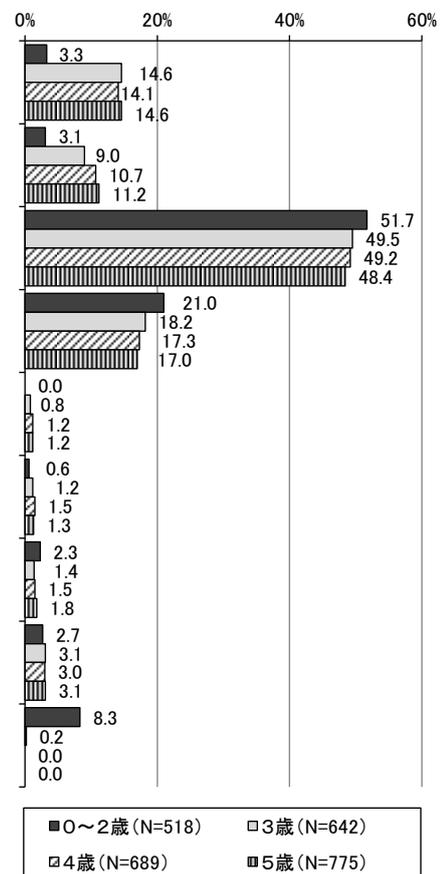


※主な事業を抜粋

《各年齢の第1希望（複数回答）》



《無償化の場合の希望（複数回答）》

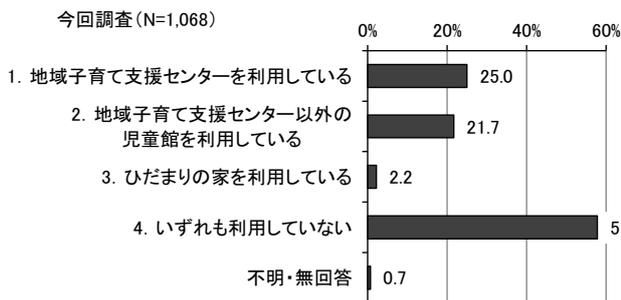


4. 地域子ども・子育て支援事業の利用について

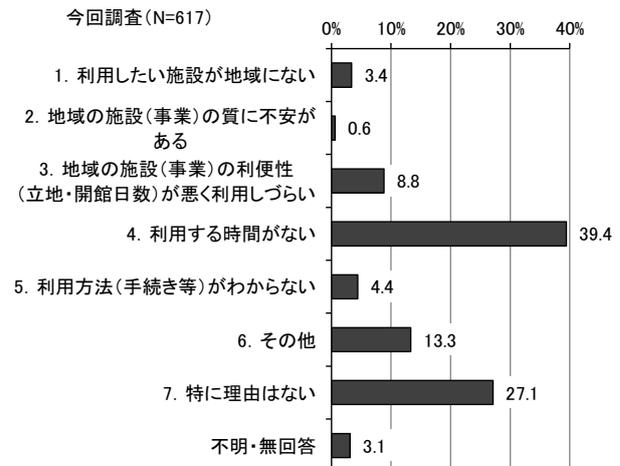
(1) 子育て支援センター・児童館・ひだまりの家の利用状況・利用していない理由（複数回答）

●地域の子育て支援事業の利用状況については、「いずれも利用していない」が57.8%となっています。利用していない理由については、「利用する時間がない」が39.4%と最も高くなっています。一方、「地域の施設（事業）の利便性（立地・開館日数）が悪く利用しづらい」「利用したい施設が地域にない」「地域の施設（事業）の質に不安がある」など、内容や条件によって利用していないと思われる方が合わせて12.8%あります。

【就学前調査】



《利用していない理由》

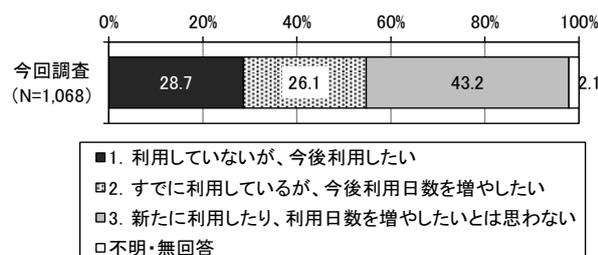


(2) 子育て支援センター・児童館・ひだまりの家の今後の利用意向（単数回答）

●今後の利用については、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が43.2%と最も高く、次いで「利用していないが、今後利用したい」が28.7%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が26.1%となっています。

●母親の就労時間別にみると、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」がすべての就労時間で最も高くなっていますが、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」は『48時間未満』で38.9%、「利用していないが、今後利用したい」は、『48時間以上』で就労時間が長くなるにつれて割合が高くなっています。

【就学前調査】

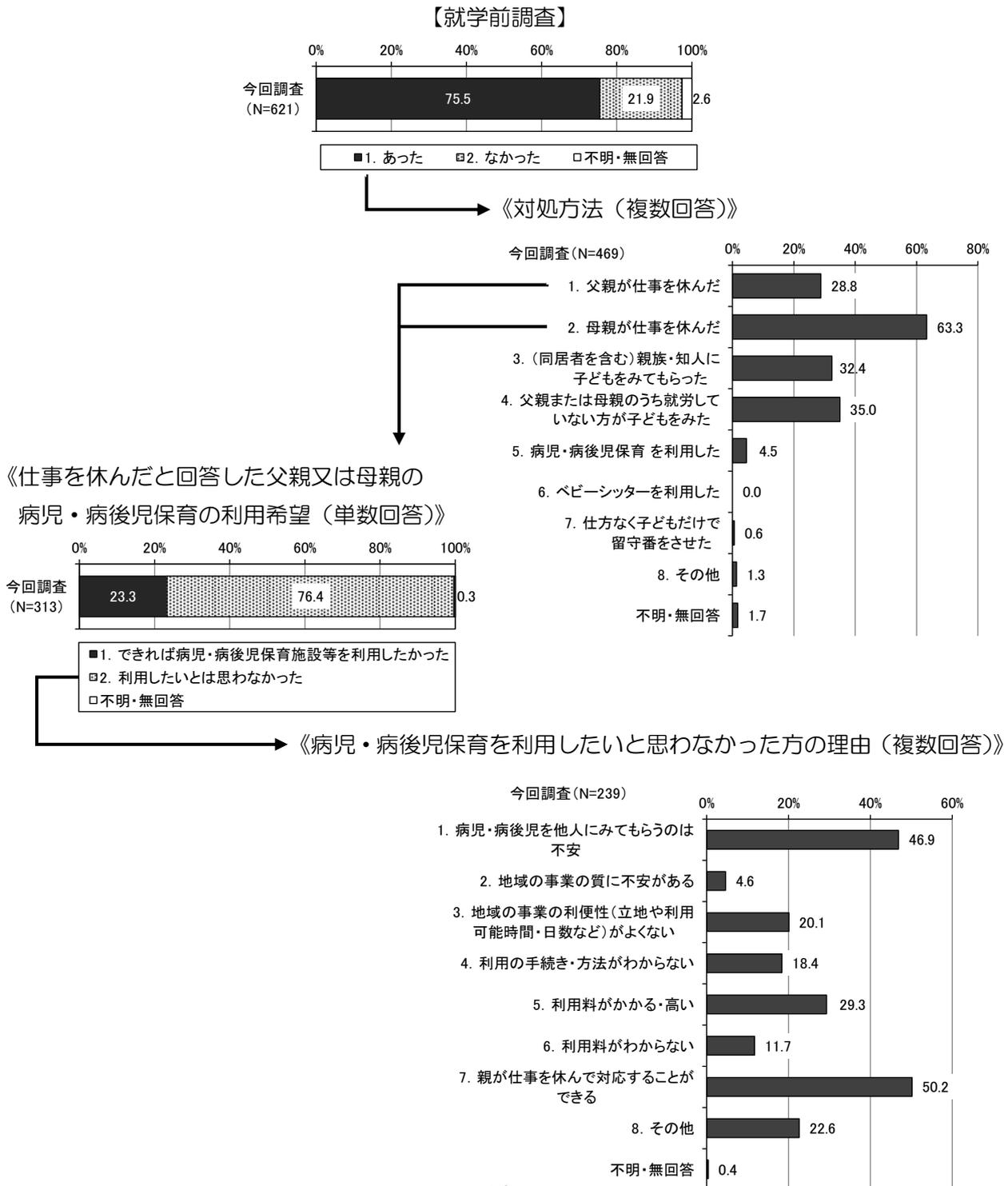


- 1. 利用していないが、今後利用したい
- 2. すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい
- 3. 新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない
- 不明・無回答

上段:件数 下段:%		問17 現在は利用していないが、できれば今後利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいと思いますか。				
		合計	1. 利用していないが、今後利用したい	2. すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい	3. 新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない	不明・無回答
問13	全体	542 100.0	196 36.2	92 17.0	242 44.6	12 2.2
(1親か月就労時間)	48時間未満	18 100.0	2 11.1	7 38.9	9 50.0	0 0.0
	48時間以上	36 100.0	11 30.6	5 13.9	16 44.4	4 11.1
	64時間未満	74 100.0	24 32.4	15 20.3	33 44.6	2 2.7
	64時間以上	168 100.0	65 38.7	18 10.7	81 48.2	4 2.4
	120時間未満	219 100.0	86 39.3	40 18.3	91 41.6	2 0.9
	120時間以上	219 100.0	86 39.3	40 18.3	91 41.6	2 0.9
	160時間以上	219 100.0	86 39.3	40 18.3	91 41.6	2 0.9

(3) 子どもが病気の際の対応（単数回答・複数回答）

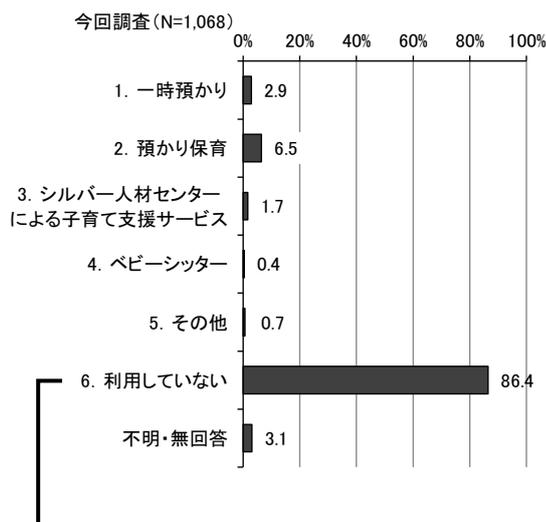
- 平日定期的な教育・保育事業を利用している方で、お子さんの病気やけがで通常の利用ができなくなったことが「あった」割合が、就学前で75.5%となっています。
- 保護者のどちらかが休んで対応した方のなかで、病児・病後児のための保育施設を「利用したいとは思わなかった」割合は就学前で76.4%となっており、その理由としては就学前では、「親が仕事を休んで対応することができる」が50.2%、「病児・病後児を他人にみてもらうのは不安」が46.9%となっており、病気の際の対応として親が対応すべきと考えている保護者が多いことがうかがえます。



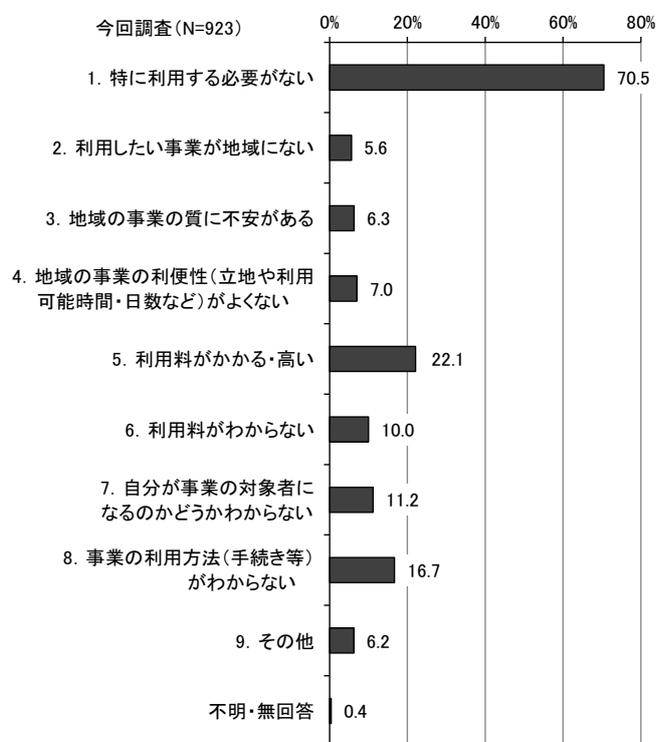
(4) 不特定の事業の利用状況・利用していない理由 (単数回答・複数回答)

● 「一時預かり」等については「利用していない」割合が 86.4%となっており、利用していない理由は、「特に利用する必要がない」が 70.5%と最も高くなっています。一方、「自分が事業の対象者になるのかどうか分からない」(11.2%)、「事業の利用方法(手続き等)がわからない」(16.7%)といった回答もみられることから、事業の内容の周知が必要です。また、今後「利用したい」と考えている方は半数程度となっています。

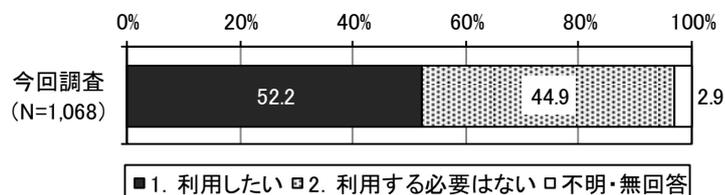
【就学前調査】



《不特定の事業を利用していない理由》



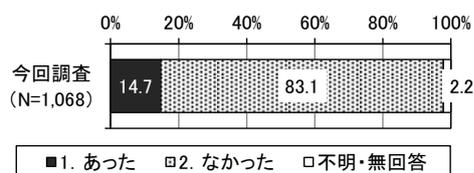
《今後の利用希望 (単数回答)》



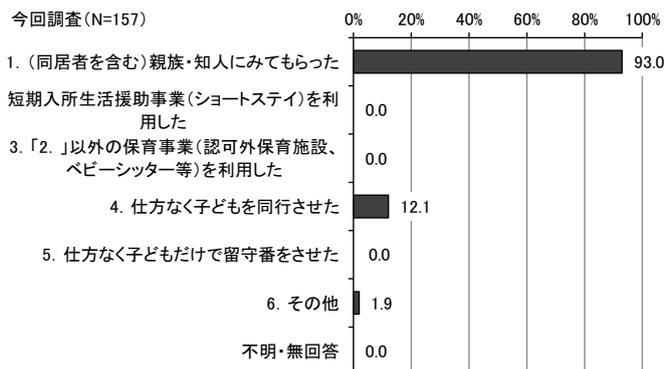
(5) 泊りがけで預けなければならなかったことの有無（単数回答・複数回答）

●この1年間に子どもを泊りがけで預けなければならなかったことが「あった」割合は14.7%で、対処方法として「(同居者を含む)親族・知人にみてもらった」が93.0%となっており、日頃、子どもをみてもらえる親族や知人の協力等で事業を利用するまでには至っていないことが考えられます。

【就学前調査】



《泊りがけで預けなければならなかった場合の対処方法（複数回答）》



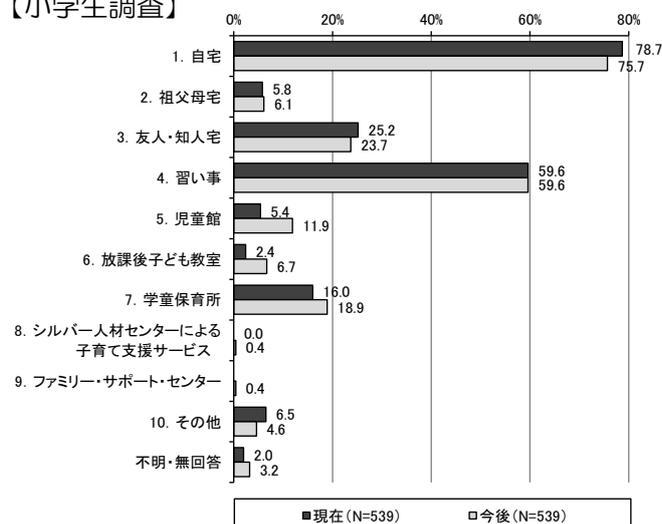
5. 小学生の放課後の過ごし方について

(1) 現在、放課後を過ごす場所・今後、放課後を過ごさせたいと思う場所（複数回答）

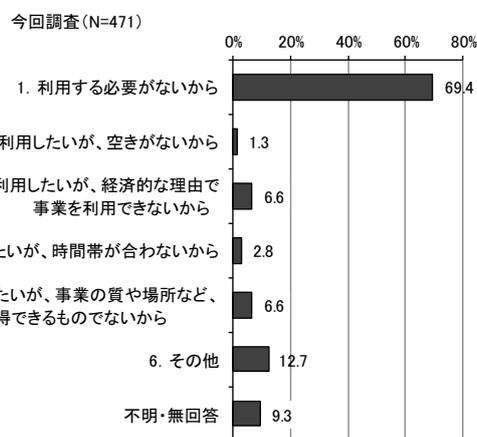
●小学生の今後の放課後の過ごし方として、「自宅」が75.7%と最も高く、次いで「習い事」が59.6%、「友人・知人宅」が23.7%となっています。現在の利用状況と比較すると、今後の希望では、「児童館」が6.5ポイント高くなっています。

●学童保育所を利用していない理由については、「利用する必要がないから」が69.4%となっています。また、「利用したいが、経済的な理由で事業を利用できないから」と「利用したいが、事業の質や場所など、納得できるものでないから」がともに6.6%となっています。

【小学生調査】



《現在学童保育所を利用していない理由》

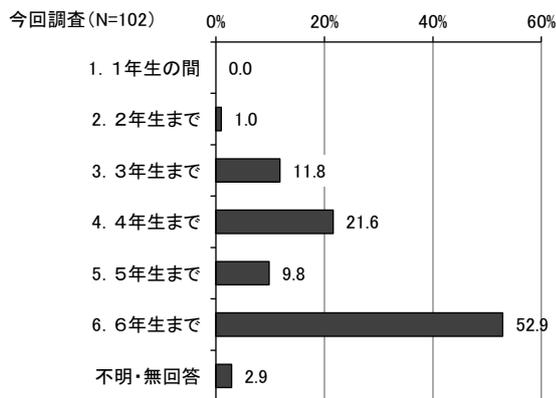


(2) 学童保育を利用したい学年、長期休暇期間（夏休み）の学童保育の利用希望（単数回答）

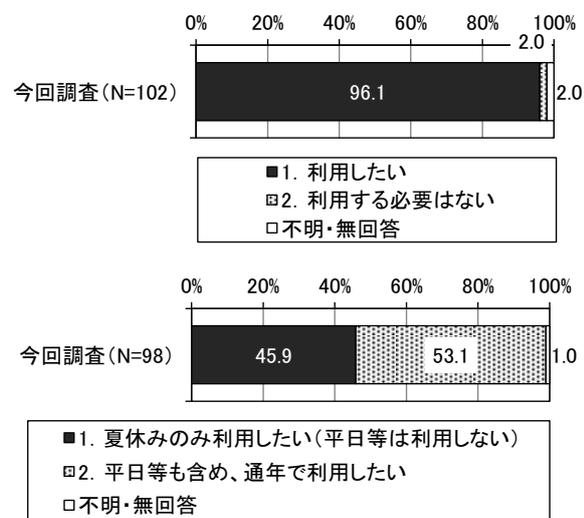
- 学童保育の利用を希望する方の利用したい学年については、「6年生まで」が52.9%と最も高く、次いで「4年生まで」が21.6%、「3年生まで」が11.8%となっています。
- 長期休暇期間（夏休み）の学童保育の利用希望について、「平日等も含め、通年で利用したい」は53.1%、夏休みのみ利用したい（平日等は利用しない）は45.9%となっており、長期休暇期間（夏休み）については、平日利用を希望しない人も含め、より学童保育のニーズが高まる傾向にあります。

【小学生調査】

《利用したい学年》



《長期休暇期間（夏休み）の学童保育の利用希望》

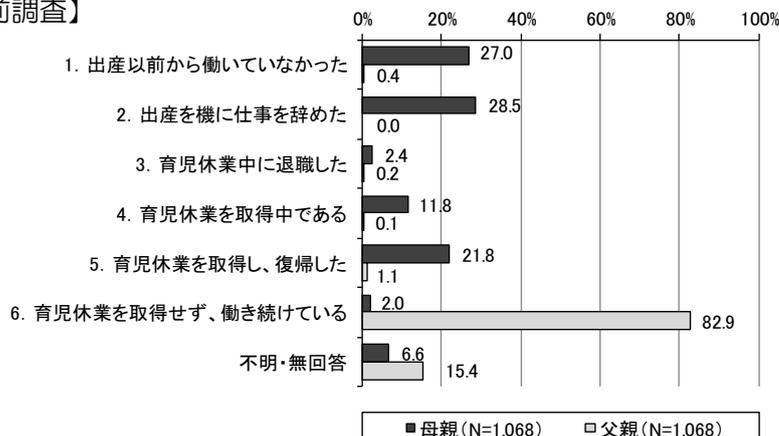


6. 職場の両立支援制度について

(1) 育児休業の取得（単数回答）

- 母親の育児休業の取得状況については、「育児休業を取得し、復帰した」が21.8%となっています。また、「出産を機に仕事をやめた」や「出産以前から働いていなかった」など就労していなかった方を合わせると50.0%以上となっています。

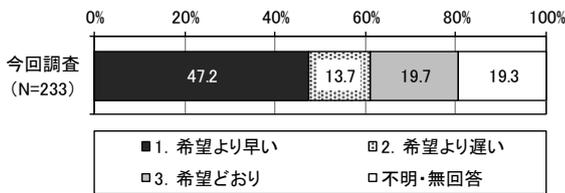
【就学前調査】



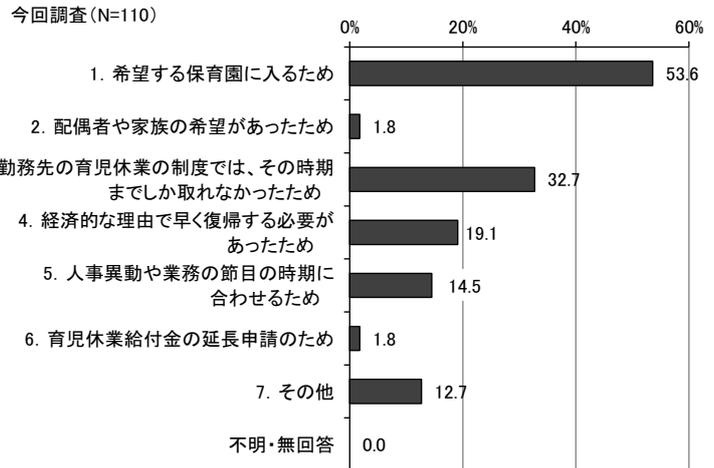
(2) 育児休業の取得期間（母親）（単数回答・複数回答）

●母親の育児休業からの復帰時期の実際と希望の差についてみると、「希望より早い」が47.2%と最も高く、その理由としては、「希望する保育園に入るため」が53.6%、次いで「勤務先の育児休業の制度では、その時期までしか取れなかったため」が32.7%となっています。

《職場復帰した時期と希望時期（母親）
（単数回答）》



《希望より早く復帰した理由（母親）（複数回答）》

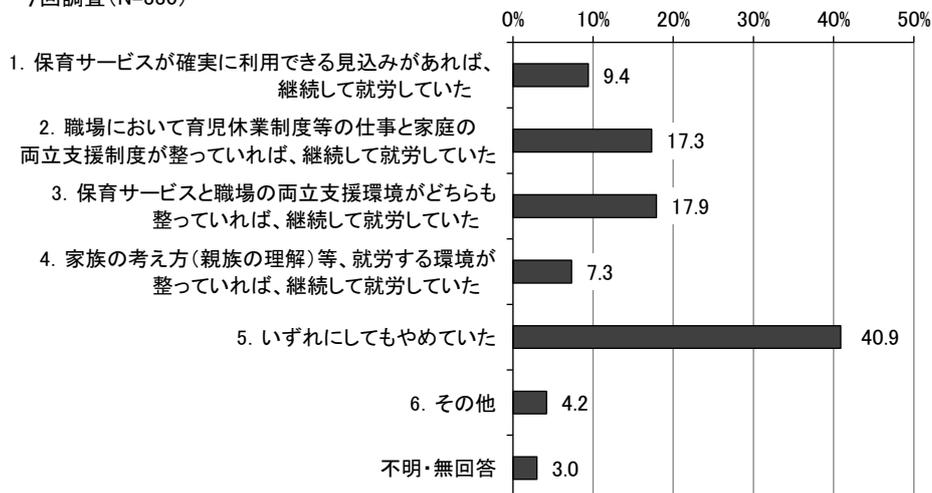


(3) 出産を機に仕事をやめた方、育児休業中に退職した方が環境次第では就労を継続していたか（母親）（複数回答）

●出産を機に仕事をやめた方、育児休業中に退職した方が、環境次第では就労を継続していたかについては、「いずれにしてもやめていた」が40.9%と最も高く、次いで「保育サービスと職場の両立支援環境がどちらも整っていれば、継続して就労していた」が17.9%、「職場において育児休業制度等の仕事と家庭の両立支援環境が整っていれば、継続して就労していた」が17.3%となっています。母親の就労継続を支援するためには、保育サービスの整備だけでなく、企業からの働きかけを促進する必要があります。

【就学前調査】

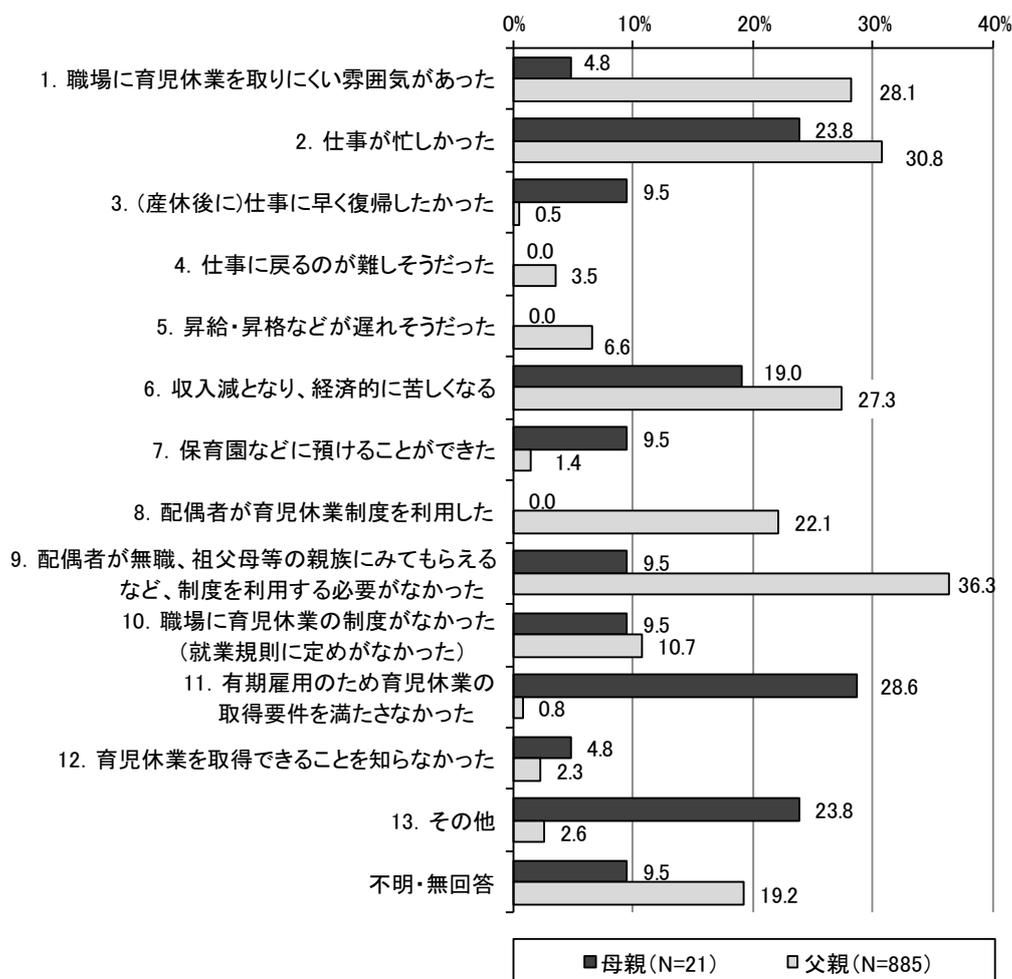
今回調査 (N=330)



(4) 育児休業を取らずに働き続けている理由（複数回答）

●母親の育児休業を取得せず働き続けている理由については、「有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった」が28.6%と最も高く、父親の育児休業を取得せず働き続けている理由については、「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が36.3%と最も高くなっています。

【就学前調査】

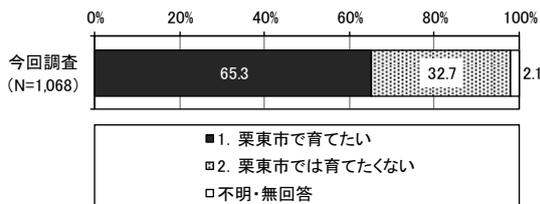


7. 子育て支援全般について

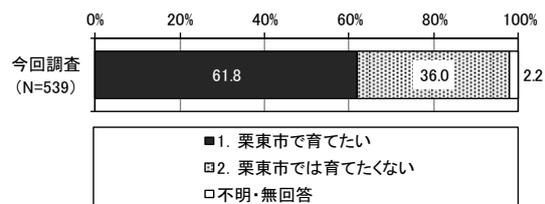
(1) 今後も栗東市で子どもを育てたいという意向（単数回答・複数回答）

- 今後も栗東市で子どもを育てたいかについては、「栗東市で育てたい」が就学前で 65.3%、小学生で 61.8%、「栗東市では育てたくない」が就学前で 32.7%、小学生で 36.0%となっています。
- 栗東市で育てたいと思う理由については、「自然があるから」が就学前、小学生ともに 50.0%以上と最も高く、次いで「風土がのんびりしているから」が就学前で 32.4%、小学生で 26.4%となっており、自然とふれあいやすい環境や風土が評価されていることがうかがえます。
- 栗東市で育てたくないと思う理由については、「保育環境が整っていないから」が就学前で 52.7%、小学生で 37.1%と最も高く、次いで「遊び場が少ないから」が就学前で 37.5%、「学校の環境が整っていないから」が小学生で 35.1%となっており、保育環境や学校の環境が主な理由となっています。

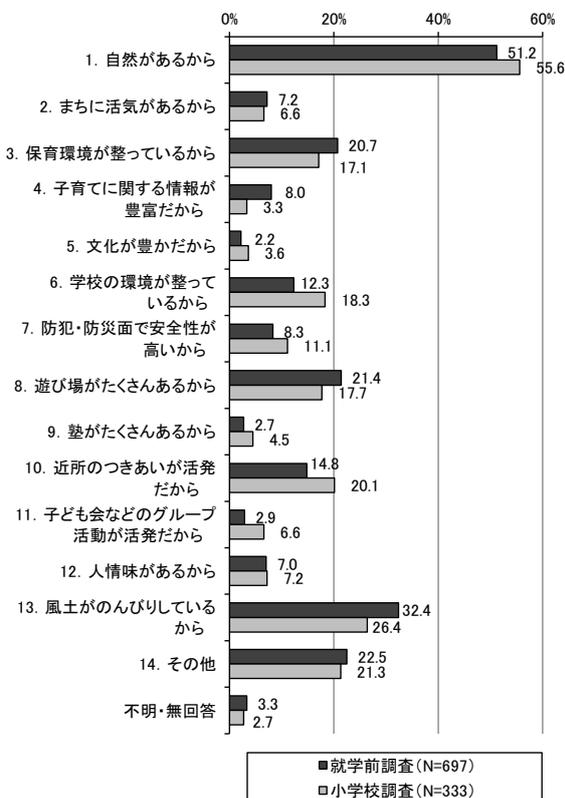
【就学前調査】



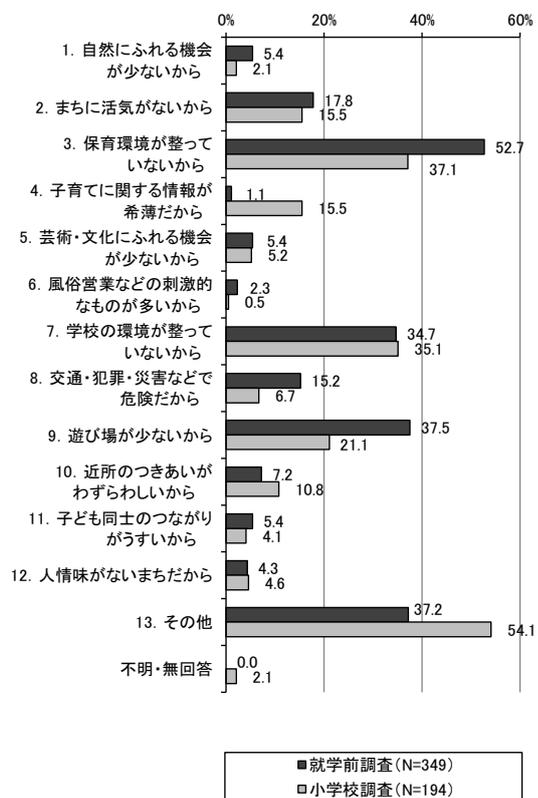
【小学生調査】



《栗東市で子育てしたい理由（複数回答）》



《栗東市で子育てしたくない理由（複数回答）》



栗東市子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果報告書概要版

平成 31 年 3 月

編集・発行：栗東市役所 子ども・健康部 子育て応援課

住所：〒520-3088 滋賀県栗東市安養寺一丁目 13 番 33 号

TEL：077-551-0114

FAX：077-552-9320

